

令和 6 年度

自己評価表

学校法人 愛知理容学園
アリアーレビューティー専門学校

1. 学校の教育目標

- 礼儀正しい人材の育成
- スペシャリストとしての即戦力となる人材の育成
- 就職、各種検定の全員合格

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 国家試験 100%合格の継続
- 競技大会上位入賞
- 接遇マナー習慣づけ
- 清掃・整理整頓

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 教育理念・目標

適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1

評価項目	評価
学校の理念・目的・教育人材像は定められているか	4
学校における職業教育の特色は何か	4
社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	2
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が学生・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	2

- 本校の目的は、アリアーレビューティー専門学校学則および学校法人 愛知理容学園寄付行為に「教育基本法に則り学校教育法並びに理容師法、美容師法に基づき、理容師・美容師の養成に関する教育を施すことを目的とする。」と明確に定めている。
- 上記の目的に沿って、教育理念・教育方針（建学の精神）は、次のように明確に定めている。
 1. 私達は社会の一員として広い視野と教養をもって「人間の美を創る」ことにつとめます。
 2. 私達は常に一層高い技術と洗練された感覚をもって文化と公衆衛生の向上につとめます。
 3. 私達は和をもって団結し、真と善をもって人に接し、平素の修養を怠りません。

- 具体的な養成しようとする人物像は、理容科では、
 1. 一生涯理容師として活躍できるよう技術だけでなく強い意思
 2. 如何なる仕事でも工夫して良い仕事にしていく気持ち・考え方
 3. 常に向上心を持つこと
 美容科では、
 1. 多くのお客様に支えられる美容師としての人格形成
 2. 生涯を通じて土台となる基礎技術の習得
 3. 国家資格を全員取得し、サロンの即戦力となる力をつける
 と定めている。
- 毎日朝礼でスローガン「全学一体 一致団結」及び「三者一体 物事を判断するときに、学生・学校・職員の三者にとって良い事かを考える。」を唱和している。
- 理容師・美容師の基礎技術・学びを取得し、さらに自分自身で向上してもらう事を目標としている。

(2) 学校運営

適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1

評価項目	評価
目標等に沿った運営方針が策定されているか	3
運営方針に沿った事業計画が制定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する規定等は整備されているのか	4
教務・財務等の組織整備等意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

- 会計監査、業務監査とも指摘された面を反省し、チェック体制を今後確立していく。
- 日々の教育活動については、月曜日～金曜日まで学校HPにおいてブログ・FBを活用して情報公開をしている。また年2回学園新聞を発行し、保護者・地域住民・高等学校等へ配布している。(前年同様) インスタグラムに関しては週2回発信。また TikTokを中心に動画配信に力を入れる。
- 就業規則等はあるものの、社会情勢等時代に即した規則になっているとはいえない。高年齢者雇用安定法始め、毎年法令は改正されていくにも関わらず見直しがないので周知が徹底されず、働く側に不利益が生じている。その流れが、新規採用にも影響がある。

- 人は経営手腕によるモチベーション変化が大きいので、注意した方がいい。
- 就業規則や学則を学生・学校（教職員・役員）とも守る。教職員の労働意欲や満足度、教職員同士の人間関係や仲間意識が衰退する。このレベルが担保されないと、どんな政策も意味はない。
- 組織の見える化を計り、各々の仕事内容を分かるようにしていく。

（３）教育活動

適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1

評価項目	評価
教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連帯により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連帯によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	3
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準は明確になっているか	4
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2
職員の能力開発のための研修等が行われているか	2

- （理容科）令和 6 年度の教育目標（具体的に養成しようとする人物像）は、
 - ・ 理容師として、様々なものに興味を持てる好奇心ある技術者
 - ・ 細かい所にも気遣いができる発見力のある技術者

- ・様々な実習を行い、サロンの即戦力となる実践力のある技術者とする。

(振り返って) 昨年の反省をふまえて、1年次から様々な事柄の大切さ・重要さを伝える事がある程度できたと思う。しかし、その伝える時に欠席する生徒がたびたびおり、そういった生徒への周知徹底が難しい。そういった部分での教員側の伝え方、スキルの向上が必要と再認識できた。あと、生徒により集中力の持続力に差がかなりあり、集中力を切らせた生徒の対応の難しさを実感した。

- (美容科) 令和6年度の教育目標(具体的に養成しようとする人物像は、

- ・自己と向き合い、他者を認めて高め合う仲間づくり
 - ・自らの課題を克服していく強い意思
 - ・幅広い技術を学び、時代の変化に対応する発想力を培う
- とする。

(振り返って) 基本的な教育カリキュラムは同じだが、各項目の時間数に変化をつけ、力を入れる分野をわかりやすくした。具体的にはメイクとヘアカラーに特化した時間配分となる。個々の資格取得、スキルアップは公開授業を中心に学んでもらった。学生の個々の希望に沿えたと思う。今年度のヘアショーは有観客であり、メイクも含めてレベルアップが見られた。6年度は、ネイルの学びを見直す予定で取り組み、他のメニューと同等に追加。魅力も伝わり充実した時間となり、公開講座のエントリーにもつながる。全体的な反省として、国家試験後の授業欠席、怠慢が目立つ。今後の課題とする。

- (トータル科) 令和6年度の教育目標(具体的に養成しようとする人物像)は、

- ・ヘアメイク、ネイル、エステに関するトータルの知識・技術を身に付け海外中心に理美容業界で活躍できる人財
- ・技術力とコミュニケーション力を兼ね備えた人財
- ・「喜ばれる喜び」を持って、自利利他の精神で社会貢献できる人財

(振り返って) 3期生が令和7年3月卒業。入学時4名でしたが、卒業は1名。令和6年4月入学が40名あり、1年生・2年生の数のバランスが極端になる。そのためどうしても授業が1年生に合わせた形になってしまい、卒業した2年生には迷惑をかけてしまったこともある。令和7年度は実習教員及び日本語学校教員も増員し、1年生・2年生ともに進捗にあったサポート体制にする。(令和7年度は1年生7名、2年生36名 合計43名でスタート)

- 「学びたいと思える」授業、教えてもらうのが当たり前・やらされてる・仕方なしにやっている感から自分で自分をつくる主体性・積極性を育むことをテーマにしている。
- 昨今の教員の多忙化へも配慮し、仕事の分業・共有を図りながら職務に当たれるように、風通しの良い職場環境を保っていく必要がある。

- 外国人留学生が安心して学べる学校環境を構築することを目的に日本語学校（セントラルジャパン日本語学校さま）の授業を導入。毎週月曜日の4時間授業をセントラルさまで実施。令和6年度からは学生増に伴い、アリアーレ内で週2回行う予定。
- 名古屋美容協議会主催の在宅高齢者訪問 理美容サービス事業講習会がアリアーレで開催（令和7年2月17日）され、在校生も参加。新たに愛知県福祉理美容技能評価認定制度として県知事評価制度になる。在校生にとっては、資格取得の幅が広がる。（令和4年度同様、アリアーレが資格試験会場になる。）

（4）学修成果

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

- 昼間生に関して、近年の国家試験の結果は良好であったが、今回あまり結果がよくなかった。できれば校長からも教職員だけでなく、講師にも建設的な議論を投げかけてもらいたい。
- 学科の授業はアウトプット（問題演習）の機会をもっと多くしていく。ただ問題を解かせるのではなく、楽しく前向きな気持ちでやらせる環境を作り出す工夫を今まで以上に考えていく。
- 授業態度に関し、居眠り等は欠課とするなど、学び＝職業（仕事）の意識をもっと植え付けさせていく必要がある。
- 卒業生同窓会が中心となって毎年卒業生が出場する技術大会へ応援旗を持って出かけている。（今年度は全国理容競技大会 愛媛県、全国美容競技大会 富山市など）大会ポスター等を校内に掲示し、卒業後のキャリア形成の1つとして提案している。
- 留学生の就職に関しては、就職情報会社のご協力を得て、2024年9月、2025年1月に就職セミナーを開催。1月は履歴書作成・準備として自己PRや志望動機を書いてみる。今後4月にはエントリースタートをさせ、6月には会社説明会・セミナー参加、8月までに筆記試験・面接試験を経て、秋以降の内定を目標にしていきたい。

- 退学者に関してはそもそも生活面（遅刻・欠席）ができていない事が多い。（当然学びの結果にもつながる）生活指導の中心は家庭でありそれができていないと学校での集団生活にどうしても支障ができてしまう。家庭との連携に力を注ぐ。
- W スクールの生徒の退学者もあり、目標や意識の変化に戸惑う。
- 現在、就職コンサル会社を通じて留学生を採用する企業一覧の情報提供や指導をしているが、日本での就職活動の仕組みへの理解促進をもっと図りたい。（日本企業での働き方・ビジネスマナーの理解等）

（５）学生支援

適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1

評価項目	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

- 高等教育の修学支援新制度の適用範囲が令和 6 年度からまた広がり、在校生（新 2 年生）にも適用されるため、早期に準備・周知に取り組んだ。
- 専門学校を卒業した外国人留学生の就職先を拡大する運用方針が公表された。緩和されるための条件は、卒業した専門学校が文部科学省から「職業実践専門課程」の認定を受けている学校であること。履修科目と仕事内容に明確な関連性がなくても就労ビザが取れる可能性があるので注視する。
- 今年度も 12 月に保護者アンケートを実施したが、「分からない」とした回答も一定数あるため、学校の現状について様々な方法で積極的に発信していく必要がある。保護者からは学習面や進路（就職）の充実の要望が多い傾向にあった。

- 年中インフルエンザ・コロナ等感染症発生の懸念がある。発熱等重症な体調不良者には、本人や周りの状況から判断して保健室休養より早退を促す場合がある。
- 2 学期から 1 年生で不登校状態の生徒が発生し、4 名が進路変更。感染症の発生は近隣校で学級閉鎖がある中、12 月には特定のクラスでインフルエンザによる複数名欠席があったものの、学年や学校全体への感染拡大は見られなかった。毎日の欠席状況を把握することは、感染症の流行の兆しを察知し予防に活かすだけでなく、生徒の動向を把握し、不登校等生徒の問題を早期発見し、早期対応につなげるためにも重要である。また生徒の様子だけでなく、朝の朝礼で連絡がない不在生徒の把握や、本人がする欠席連絡については保護者確認が大切と考える。毎日の欠席状況から関係教職員と情報を共有し、よりよい対応を図りたい。
- 遅刻防止指導等を行うものの、規範意識・モラル・マナー等学校生活のみならず、社会生活を営む上で必要な基本的な生活習慣がまったく身につけていない生徒もいる。体調不良による遅刻も増加しており、指導の難しさを感じる。(昨年同様)
- 年 2 回 学生・保護者との個別面談を実施するが、学校不適応・人間関係・家庭問題に関するものもある。また自分の抱えている問題を自覚していなかったり、気持ちをうまく表現できなかったりする学生が増えている。校内においては、教職員間の情報交換を密にし、学生・保護者をさまざまな面からサポートしたい。

(6) 教育環境

適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1

評価項目	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	3

- 令和 5 年 10 月入学の通信生から課題提出が郵送からインターネット提出に変更になるのに伴い、学校の通信環境の整備に取り掛かる。2 階は全面 Wi-Fi 環境を整え、電子黒板を用意。プロジェクター仕様のホワイトボードも設置する。
- ロンドンを中心とした海外研修を計画したが、コロナ前よりすごく旅費が高騰しており旅行会社の説明後、参加人数が集まらず中止。次年度は実施時期や引率形態、研修内容や行き先も考え直して学生に提案していきたいと思う。
- 研修などを通じた ICT の活用に対する取り組みができていない。そのため全教職員が関心を持って取り組んでいない。

(7) 学生の受け入れ募集

適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1

評価項目	評価
学生募集活動は、適切に行われているか	3
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	2
学納金は妥当なものとなっているか	3

- 留学生に関しては、令和 6 年 4 月入学生が 40 名（内 4 名退学）だったため、総定員の関係で 7 名のみの入学。（出願は 13 名）令和 8 年度入学生に向け、2 年生の就職活動をしっかりし、アピールをしていく。
- 隣の理容組合を意識した学校役員が多いが、組合を意識するなら中部美容専門学校が行っている美容組合修学支援助成金制度のようなものを用意し、理容を目指す生徒のサポートを考えていただけるとありがたい。（前年同様）
- 留学生に関してはネパールが多い。（令和 6 年 4 月入学者 40 名中 32 名がネパール）現地ネパールでは学生のうち約 7 割は「留学」ではなく、「特定技能」ビザの取得を希望しているとの声があるが、その割には日本語学校もネパール国籍ばかりで、どこかでズレが生じている。専門学校在学中に特定技能での就労が見つかりと専門学校をやめる傾向は当校でも感じており合致する。
- 今後は Line の強化を図っていきたい（Line で最新情報、オープンキャンパスの案内。資料請求者を Line の友だちにしていける。Line でオープンキャンパスの申し込み等完結するような感じ）。
- 新しいメディア（TikTok）を本格的に始めたが、うまく継続できなかった。学生の成長や学校の文化をより多角的に伝える事ができなかった（卒業生の実績や在校生インタビュー等）
- 広告に頼った募集に疑問を感じる。（広告より教育）教育の延長線に広報・募集があると理解すべき。教育の質こそ、学校ブランドの要であり、選ばれる学校の教育の質とは何かを考える必要がある。厳しい学生募集環境の中で専門学校の教育力が問われている。（前年同様）ただ、質の良い教育をしても、知ってもらわなければ宝の持ち腐れで、そのためには広告媒体も必要。（昨年同様）
- 持続可能な選ばれる学校をするには、経営者、教職員の連携強化が必要。（昨年同様）

(8) 財務

適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1

評価項目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3

財務について会計監査が適切に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

- 建築当初から今日まで、経年劣化等により今後も手直しが必要になってくる。健全な状態を維持できるよう管理をしていくためにも、計画を来年度も継続案件として進めていきたい。
- 非常災害時には避難所として地域住民避難拠点としての役割までとは言えないが、十分な安全性・機能性を有する校舎を目標にしたい。

(9) 法令等の厳守

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	2
自己評価結果を公開しているか	4

- 11月、愛知県医療局生活衛生部生活衛生課の養成施設指導調査があり、同時授業等の校内整備についての指導を受ける。ほか昼間課程から通信課程への編入所等のアドバイス、教員変更届の整備をしっかりと行う。
- 以前、入国管理局への未報告で指導勧告を受けたが、今期も学内ではあるが学生の出欠席確認が約2年間も放置され、指導・監督の機会が大きく損なわれた。上司の確認もおろそかで、かつ監査役も何を監査すればいいのかを理解しておらず二重に欠落。何を監査するのか、されるのか経営陣の理解度が問題。
- 今一度振り返りをすることの大切さ、複数の目でチェック、思い込み先入観や固定概念をなくすことが必要。

(10) 社会貢献・地域貢献

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

- 恒例になった年 2 回（6 月・11 月）、栄献血ルームへ出かけ学生・教職員による献血協力を実施する。長年の協力に対し、愛知県献血運動推進大会（令和 6 年 7 月 29 日）に招かれ感謝状をいただく。数年ぶりに学生向け校内献血セミナーを開催し、（令和 6 年 9 月 26 日）栄献血ルームの職員の方から直接動画を使いながら血液事業の話をしていただく。今池まつりに参加し、地域交流を深める。
- 大学・専門学校における社会人受入れの推進に関する制度が充実する中で、地域住民の皆さんに学習機会を提供する「公開講座」を開設。通信生を含めた在校生はもちろん、一般市民の方からも受講申し込みがあり、今後も理美容に限らず、バラエティーに富んだ講座の開設に努めていく。（前年同様）
- 同じ学校区の名古屋市立千石小学校のみなさん（児童 7 名＋教員 1 名）が生活科の授業の一環として来校。（令和 6 年 10 月 31 日）学校見学だけでなく、アリアーレ教員・在校生にインタビューもあり、地域との関わりを深めることができた。小学生にとっては自分の興味関心に気付いたり、今後の自分について考えたりすることができるようになるきっかけになればうれしい。
- NPO 法人あいちかすがいっこ主催（後援 愛知県・春日井市・中日新聞社）の「ママの文化祭」に初参加（春日井市総合体育館 令和 6 年 12 月 19 日）主催者・学生でファッションショーを演出。体験ブースも設け、日頃学んでいる理美容技術を生かす。（学生のお手伝いは 32 名、教員 2 名で参加）
- 収益事業として公開講座の特別班（チーム）を立ち上げ、強化していきたい。

（1 1）国際交流

適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1

評価項目	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

- 留学生向けに千種警察署より、災害への備えについて講演をしてもらう。（令和 6 年 9 月 30 日）ハザードマップの確認、大地震への備え、在留カードの管理へと続く。
- 令和 5 年度 出入国管理局審査部門による教育機関の選定結果が「適正校（クラスⅡ）」であった。専修学校における入学希望者の日本語能力の判定にあたっては、日本語教育機関において、6 か月以上教育を受けていれば基準を満たすが、日本語能力試験 N2 相

当以上の日本語能力を当校において目指し、在留審査において本来活動を行う能力に近づけていく。

以上